

2024年9月度 安全衛生委員会 衛生講話

# 今考える「防災」について

産業医 西川菜摘



## 今だから考えるべき「防災」とは

---

8月の宮崎県地震後に発表された「南海トラフ地震臨時情報（注意報）」に驚かれた方も多いと思います。また全国各地で多く発生した局地的豪雨（ゲリラ豪雨）や猛暑日連続40日を記録した福岡県太宰府市があるなど、異常気象が話題となりました。地球温暖化が原因と言われていますが、今後も予想以上の災害等が発生することも考えられます。

各個人で災害対策は行っているかと思いますが、企業側にもその対策が必要です。自然災害における**企業の「安全配慮義務」**があることを忘れてはいけません。

今だからこそできる「防災」について考えてみましょう。

# 企業における防災備蓄品 ～目安と選定のポイント

企業が取るべき基本的な防災対策として、防災備蓄品の準備が挙げられます。



保存食 (3食×3日分)



救急医薬品箱



懐中電灯



携帯ラジオ



乾電池  
非常用電源



ヘルメット

## あったらいいな



簡易トイレ



マスク



タオル



毛布



ホイッスル

具体的な対策・準備は  
企業それぞれ考えて  
実施・検討が必要です



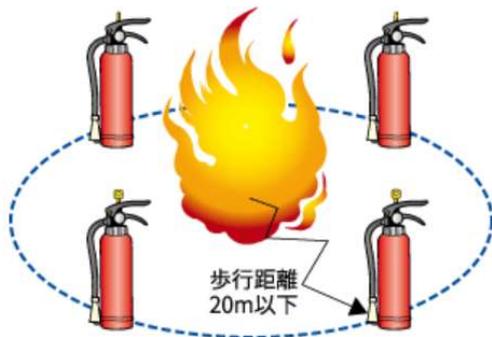
# 消火機器、非常口、避難経路の確認



## 非常口付近に障害物を置くことは消防法違反です

- 出入口付近は扉の開閉ができるよう、物を置かないように注意すること。資材や備品などの物置場にならないように。
- 消火機器の周りには物を置かないように。虎の子テープを貼るなど、見た目にもわかるようにしても可。
- オフィス家具の固定も重要です。家具の転倒で通路が塞がれ避難が遅れる、困難になる場合もあります。

## 消火器は適切に配置しましょう



- 通行・または消火に支障がなく、必要時にすぐに持ち出せる場所に設置。
- 各防火対象物・部分から歩行距離20m以下になるように設置し、各階ごとに設置すること。

# 【災害事例】 人的要因による災害

## 【事例1】 2017年2月 アスクル物流倉庫火災

事務用品通販アスクルの巨大物流倉庫で火災が発生し、鎮火までに12日間を要した。

鎮火にこれだけ長引いた原因は、一部の防火シャッターが正常に作動しなかったほか、ドアの一部が施錠され、消防隊の進入を阻んでいたことが報告されました。

火災時に自動的に床まで下りて火の回りを防ぐ防火シャッターが一定間隔で設置されていたが、**一部のシャッターの下に障害物があつたため閉まりきらず延焼**を招いたとの報告もあった。



障害物で閉まりきらず火の回りを防げなかった防火シャッター＝1日、埼玉県三芳町（国交省提供）

## 【事例2】 2001年9月 歌舞伎町ビル火災

歌舞伎町の雑居ビルで火災が発生し、44人が死亡した。出火原因は放火の可能性が高いが、被害拡大の原因はビル内の避難通路の確保が不十分であったためとされている。

**避難経路（階段や非常口）に物がつまっていたり、確保できていなかったため、これだけ多くの死傷者を出した。**

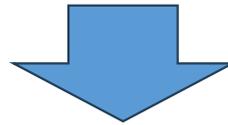


# 災害時の連絡網の整備

一昔前の緊急連絡網といえば、「個々の電話番号を載せた名簿を配布する」が一般的でしたが、現在は個人情報保護の観点から電話番号などの扱い方にも細心の注意が必要となります。近年では「安否確認アプリ」が登場し、地震速報などに反応して自動で緊急連絡を行ってくれます。

**会社の連絡網を作成し、重大なトラブルや災害に備えましょう**

従業員にいち早く情報を伝え、迅速な安否確認や対応指示に役立つことに加え、二次災害の予防にもつながります。



**会社の緊急連絡網の  
具体的な連絡手段**

- メール
- 電話
- 安否確認専用のシステムやアプリ
- SNS
- ビジネスチャット

【注意】上記いずれもメリット・デメリットがあります。また個人情報の取り扱いには十分気を付けてください。

## まとめ

---

- 自然災害における企業の「安全配慮義務」を忘れずに
- 防災備蓄を準備しましょう
- 消火器・避難器具の場所の確認、および避難経路の確認を定期的に行いましょう
- 災害時の連絡網の整備を考えましょう
- (可能であれば) 必要に応じて「在宅勤務」の推奨を

